

恩師からの便り

高山 誠一先生

同窓会で集まると必ず話題になるのが“恩師の話題”。懐かしいあの先生はお元気でしょうか？ という皆さんの想いにお応えして、本誌が恩師の便りをお届けします。記念すべき第1回目は高山誠一先生です。

昭和49年の体育祭にて



5年前、公益財団法人の理事長を辞して以降、ふるさと緒方町を拠点に「晴耕雨読」の充実した日々を送っています。平日は近くの畑で野菜づくりに励み、週末は大分市で本屋通いをしたり孫たちと遊んだり、楽しく過ごしています。また、時々剣道の稽古に汗を流しています。竹田高校には、昭和48年10月1日に赴任。実はその直前に新卒で公立中学校に採用され赴任していたのですが、9月末に退職をして高校に採用されるという異例の途中人事でした。

さて、母校での思い出の第一は、ラグビー部の監督を務めたことです。半年間でしたが『ハイスピードラグビー』という本を買って求め、日夜勉強をして指導に当たりました。監督を引き継いだ6月初めの高校県体では大分舞鶴に次ぐ準優勝でした。昭和49年度からは、専門の剣道部の指導が始まりました。厳しい練習と県外遠征等により、次第に県下の上位校に進出し、全国大会や国体に出場する選手も出るようになりました。この間の指導法の確立が、その後、赴任した佐伯鶴城高校での全国制覇に繋がったものと思います。また、体育では1年生男子には「剣道」が必修でした。初体験の生徒には、防具のにおいや



晴耕雨読の近影
(2018年緒方町にて)

大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第57号

発行者・会長 菅 博敏
編集者・委員長 衛藤 淳
発行所・関東同窓会事務局
〒194-0013
東京都町田市原町田4-17-20
電話 042-725-5018

<http://kantoutaketa.org/>

恩師からの便り

このページは、気になる恩師の消息をたどって寄稿をお願いする形で誌面を作っていきたいと考えています。そこで、皆さんからのご要望があれば、可能な限りそれにお応えしたいと思います。以下の要領で希望をお寄せください。お待ちしております。

恩師名	
恩師担当教科	
連絡先	不明の場合は情報なしでもけっこうです
恩師赴任時期	
希望者名(卒業年)	
希望者様の連絡先	電話番号・携帯電話番号・メールアドレス

要望提出先

『臥牛』編集担当 衛藤 淳
〒181-0003 東京都三鷹市北野2-3-22
(TEL&FAX) 0422-43-7762
(携帯電話) 090-9159-7231
(Eメールアドレス) etoj@hotmail.com

素足の冷たさなど、苦痛であったと思いますが、剣道部の稽古に参加する生徒もいました。一方、女子の授業はまったく持たず、たまに行く代講のみでした。このような母校勤務の中で、最も印象に残る生徒は、2年生の担任を務めた一人の男子生徒(※)です。いたずらや校則違反等を繰り返す生徒に悪戦苦闘しましたが、級友の支えもあり無事卒業、立派に成長してくれました。



1年から3年まで初めてクラス担任を持ち上がった学年の卒業式にて(昭和52年卒)

に鍛えられ、大きく成長させてもらった7年半でした。竹田高校関東同窓会の益々の発展を祈念し結びとします。
※編集部注…この「一人の男子生徒」は同級生には、誰かすぐにわかります。



渡部桂子さん

倉原佳子さん

第33回竹田高校関東同窓会 総会・懇親会

【期日】2019年6月29日(土)

【会場】東京プリンスホテル

(地図は同封のチラシ参照)

- 総 会 / 11:30~
- 懇親会 / 12:15~



当番幹事代表
宮木 勢
(昭53年卒)

6月29日(土)に開催されます!!

2019年度 関東同窓会
総会・懇親会ニユース

当番幹事・昭53年卒・昭63年卒

年に1回の竹田高校関東同窓会の総会・懇親会が今年は6月29日(土)に開催されます。

今年は当番幹事の芸達者が勢揃いします。東京藝大を卒業し、本場イタリアでオペラを学んだ「銀河の歌姫」倉原佳子さん、ヒップポップダンス世界大会オーバー40部門日本代表の渡部桂子さん、地元大分でフォークソング・トリオとして名を馳せているTAKE-outの3組が競演します。

また今年は「ふるさと物産販売」商品の拡充を予定しています。

さあ、今年も「生涯竹高生」の集いに参集しちくりー。



フォークソング・トリオ TAKE-out

修学旅行生との交歓会

上京した修学旅行生と
関東同窓会の代表が
交流しました!!



岩男 暁子
(昭62年卒)

平成30年12月10日午前8時より、竹田高校修学旅行生と関東同窓会会員との交歓会がオリエンタルホテル東京ベイにて開催されました。

菅会長をはじめ都幹事長、山部事務局長とお嬢様でアナウンサーの山部朱里さん、大石美紀先輩、濱口鈴子先輩と私の7名で参加致しました。

本戸校長ご挨拶の後、各自が故郷の思い出や関東での生活などを語りました。山部朱里さんは、育ててくれた親への感謝を話され、会場が優しい雰囲気になりました。

その後、濱口先輩のお話を賜りました。竹田高校は120年以上の歴史を持つ屈指の高校です。それ故、体制も時代が変わり、知らないこともあります。濱口先輩は昭和26年に卒業されました。当時の様子や戦後の困難な中であって、働きながらで

関東同窓会を代表して菅会長があいさつ



も学びたい気持ちが強かったこと、「何でもやってみよう」というチャレンジ精神で、県で初のバスガイド試験に合格されたこと、上京後は大使館で外国の方と交流されたこと、今も現役で介護職にご尽力されていることなどを伺いました。はつらつとされた濱口先輩は、この日のお話し物もお顔の頬もきれいなピンク色で、凛とした撫子のお花のようでした。夢を抱き、挑戦と前進する気持ち、竹田高校の成長意欲は、先輩方が繋いで下さったのだと思いました。

分たちに何ができますか」という質問が多く、大変頼もしく感じました。また世代を超えて共に考えることができ、故郷の良さと課題を再認識する機会となりました。

またこの紙面をお借りして同窓会のみなさまにお願い致します。みなさまの貴重な体験を、後輩達の未来のためにお聞かせください。純粋で礼儀正しく、昔から変わらぬ制服を着た高校生との交流は、心浮き立つものです。皆様のご参加をお願いして、ご報告を終わらせていただきます。



班に分かれて座談会

グランツたけたの外観



「廉太郎ホール」と名付けられた大ホール



登山口から片道40分ほどで入山公廟まで行くことが出来ます。実際に岡城趾や入山公廟に足を運び、肌で感じていただきます。

復興のシンボル『グランツたけた』が待望のオープン
平成24年7月の九州北部豪雨により、約40年の歴史に幕を閉じた旧竹田市文化会館が6年の復興の歩みを重ね、竹田の文化を未来へとつなぐ「竹田市総合文化ホール グランツたけた」が平成30年10月7日にオープンしました。

岡藩3代藩主・中川久清公は山好きとしても知られており墓所・入山公廟は大船山中腹標高1,400mに位置する儒葬墓で、日本一高い場所に眠る藩主の墓地としても知られていて、ここ近年発掘及び整備を行いました。毎年4月～11月まで大船山観光登山バス（有料）を運行し



竹田市観光ツーリズム協会
事務局長
島村 育郎
(平7年卒)

故郷・竹田の話題

あつて欲しいという願いが込められています。広く活用し、文化芸術を未来へつないでいく施設として期待されています。

岡城趾が お城ランキング急上昇!!

「世界最大の旅行サイト」トリップアドバイザーで「旅好きが選ぶ！日本の城ランキング2018」が発表され、ついに岡城趾が5位まで躍進しました！ お城好きの人々においては評価がものすごく高く、城跡からの眺めがすばらしいと好評を博しています。

大分県立竹田高等学校関東同窓会 令和元年度年間予算（案）

項 目	平成30年 確定値	令和元年 予算案	備 考
総会収入			
総会会費	1,820,000	1,760,000	集客目標：220名
総会祝儀	160,000	150,000	
販売手数料	7,600	0	
小 計	1,987,600	1,910,000	
総会費用			
ホテル支払	1,830,535	1,700,000	部屋／料理、サービス料
来賓土産代	30,300	30,000	
酒持込代	20,500	20,000	ワイン、焼酎等の持込
本部売店仕入	0	0	本部運営売店
イベント費	176,289	200,000	出演料、関係設備費
案内状	149,040	150,000	印刷／送料（佐伯印刷）
通信費	42,973	40,000	事務局（返信ハガキ等）
備品その他	6,401	10,000	総会関連備品／送料等
その他諸掛	27,153	20,000	来賓交流、法被関連
小 計	2,283,191	2,170,000	
総会収支	▲295,591	▲260,000	
	速報値	予算案	
維持会費収入	1,564,000	1,600,000	目標：320口
経常費用			
会報費	605,736	600,000	臥牛第57号／58号
会議費	265,470	300,000	アルカディア市ヶ谷、他
名簿費	3,500	4,000	維持会費納入依頼費用
HP費	6,480	6,400	ドメイン／サーバー費
幹事助成金	50,000	50,000	
組織活動費	33,014	50,000	役員出張経費、等
新規事業	100,000	100,000	予備費
事務通信費	186,525	212,000	
通信費	9,186	10,000	事務局／総務
諸会費	101,000	100,000	他校同窓会交流御祝儀
手数料	29,490	30,000	維持会費振込手数料等
荷造運賃	2,046	2,000	宅配便等
事務・消耗品	24,053	20,000	事務局／総務
母校支援費	20,750	50,000	図書寄贈、修学旅行支援
小 計	1,250,725	1,322,400	
維持会費収支	313,275	277,600	
雑収入	18	20	利息
寄付金収入	0	0	
合計収支	17,702	17,620	
次期繰越金	3,116,642	3,116,560	

平成31年3月現在

（単位：円）

関東同窓会の収支状況について

総務委員長 羽田野 耕一（昭46年卒）

関東同窓会は維持会員皆様の善意の御浄財で会員通信（臥牛）発行や母校支援、他校同窓会交流などの事業を予算化するとともに、参加者会費で年1回の総会を開催しております。年間収支につきましては総会資料に掲載しておりますが、総会当日は説明に十分な時間が取れませんでしたので本紙面にて年間収支の概略を報告させていただきます。

平成30年度の主な活動は、第32回総会・懇親会（出席者230名、来賓16名、恩師2名、東京プリンスホテル、6月30日開催）。

注：数値は平成31年3月現在

今年の当番幹事として活躍中!! 昭和53年卒



▲今年の当番幹事・昭和53年卒のメンバーは昨年9月から毎月1回、当番幹事会を重ねてきて「総会・懇親会」の準備にあたってきました。写真は昨年12月に行われた当番幹事会の時のもの。当番幹事という本会の伝統がしっかりと継承されています。（前列・昭53年卒、後列は役員）



昭和40年卒が六本木に集合!

◀古希も過ぎてなお盛んな昭和40年卒が1月に東京・六本木に集合して大いに盛り上がりました。盛り上がりすぎて、写真はブレブレ、原稿はなし。



古希同級会

▲昨秋、別府市のホテルニューツルタで昭和41年卒業生の「古希同級会」が開催され、全国から76人が参加しました。会場のあちこちには笑顔がいっぱい。2次会はヒットパレードクラブで音楽とダンス、カラオケと最高の盛り上がりでした。久しぶりに友と語る皆の姿は懐かしくも青春そのものでした。次回の東京開催を約束して散会しました。

[井手 得朗（昭41年卒）]

クラス会・同期会

竹田会懇親会が盛大に開催!



事務局
佐保 哲郎
(昭54年卒)

第68回竹田会懇親会、平成最後となる懇親会が11月2日東京ガーデンパレス平安の間で開催されました。昨年同様に阿南貴恵アナウンサーの開会宣言に続き4名の物故者に黙祷が捧げられました。

まず古庄幸一会長から「たくさんの方にお集まりいただきありがとうございます」とのご挨拶と、「豊後の国、岡藩七万三千石の」という書き出しで始まる小説『吉原裏同心』、機会があればぜひ読んでいただきたい」とのお話もありました。

続いて、首藤勝次竹田市市長からのご挨拶があり、岡城が日本の城ランキング5位、城址では全国1位になったとのビッグニュースの報告がありました。また、グランツたけのオーブン、大分県久住高原農業高等学校等について元気な竹田の情報がたくさんご紹介いただきました。

続いて、NHKプロフェッショナル

ナル仕事の流儀に出演された白坂亜紀さんの講演があり、3カ月近い取材で放送されたのは1割程度とのこと。銀座で一番モテた白洲次郎さん、作家の渡辺淳一先生の逸話等々「いき」についての講演がありました。いきな男になりたいと思わせられる講演でした。

そして、銀河の歌姫、倉原佳子さんから「私の太陽（オーソレミオ）」他3曲の心に染みわたる歌の披露があり一同が歌声に聞き入っていました。

佐藤映之さんの乾杯のご発声に続き服部真志・竹田高校同窓会長から竹田、全国からご出席



白坂亜紀さん



倉原佳子さん



竹田高校関東同窓会
佐藤映之相談役

の皆さんのご紹介がありました。また、廣瀬武夫生誕150年祭実行委員長の甲斐正章さんが登壇され、笹本玲央奈先生が廣瀬神社に残る絵はがきから70通を研究した成果としてまとめ、現代語訳をした著作「廣瀬武夫からの絵はがき」の紹介がありました。

多くの話題で盛りあがった竹田会も閉会の時間となり、全員で荒城の月を合唱し幕を閉じました。次回は、新元号になっての初めての竹田会です。たくさんの方のご出席をお願いいたします。



同窓生登場①

ラグビー部 栄光の歴史を飾ったキャプテン

大分県で高校ラグビーと言えば“大分舞鶴”と誰もが知っている歴史がありますが、そんな大分舞鶴でも全国制覇をしたのは1回だけ、1974年(昭和49年)、全国高校ラグビーフットボール大会(通称:花園)においてでした。その年、高校総体の大分県大会の決勝で、大分舞鶴と対戦したのがわが竹田高校ラグビー部でした。今回の“同窓生登場”は、その時のラグビー部キャプテンだった上野聖展さん(昭50年卒)です。



昭和50年卒
上野 聖展さん

大分舞鶴との決勝戦は68対3というワンサイドゲームでした。大分舞鶴はこの県大会決勝までゼロ封の完全試合を続けており、唯一、当方がペナルティーキックでの得点で、ゼロ封を免れた試合でした。

当時の大分舞鶴はその県大会までに九州各県の有名高校と練習試合をやってきていましたが、唯一、佐賀工業との試合で失点した以外は、無失点試合を続けていたようです。それほどに当時の舞鶴はかけ離れたチーム力を持っており、舞鶴の選手へのタックルも2〜3人がかりで倒しに行く有様でした。

いずれにしても選手全員がケタハズレの体格体力を持っていました。僕たちが3点得点した後は、舞鶴のプレッシャーが一段と激しくなって、試合終了時には当方の選手は傷だらけ、ユニフォームが破れている者も多かったです。

そもそも、私は高校入学時は運動部に入る気持ちはまったく

ありませんでした。ところが、自分の体格(身長180cm)から、運動部の勧誘が多かったのです。特に柔道部からの勧誘が激しく、断る手段として決まってもいけない「ラグビー部入部」という出鱈目を使ったのです。しかし、これが災いしてラグビーの先輩の耳に入り、入部せざるを得なくなりました。こうして、ラグビー部に入部し練習に参加するように

竹田対大分舞鶴の決勝戦の結果を報じた記事(大分合同新聞)1974年7月2日付朝刊より

大分合同新聞			
竹田		舞鶴	
FW		△決勝	
HB		鶴 68	
TB		3236	
FB		103	
計		3竹	
田		鶴 340	
田		TGP	
田		3前36	
田		TGP	
田		000	
田		000	
田		0後32	
田		3計68	

なったものの、泥・ホコリまみれという汚さに常に退部しようと考えていました。

入部当初、新入部員の1年生は7〜8名で、先輩方も含めて20人以上の部員がいたと思います。練習場のグラウンドは石ころだらけで怪我が絶えないうえに、ラグビーは格別の悪天候とならない限りは試合が行われることから、練習の休みはほとんどなかったのです。

こんなことから、時が経つにつれ、1年生部員は次々と辞めていき、2年生になるころには1年部員は4名になっていました。当時のラグビー部はコーチなど学校サイドの指導者はおらず、先輩の指導のもと部員同士が話し合いながらの練習が主でした。ただ、高校近くの鮮魚店の店主がラグビー部の先輩とのことで、暇を見つけては指導に来ていたものでした。ありがたかったことをよく覚えています。

入部当時は、すぐにでも退部することを考えていた私でしたが、なかなか言い出せずに居続け、1年先輩方が春のインターハイ予選終了とともに部活動から離れ、自分たちが最上級生となりました。当然、こうなればキャプテン決めのなるわけですが、私がキャプテンを押し付けられて受ける羽目となったのです。といっても名前だけのキャ

プテンで、以後、特別なことはした覚えはなく、先輩方の練習を踏襲するだけでした。

しかし、キャプテンになって困ったことは、やはり部員数でした。というのも新入部員はなかなかおらず、1年後輩の入部者は数名で試合に出る選手15人に至らない状況だったのです。

ところが、そんな折、学校側からラグビー部とサッカー部のいずれかを廃部するという話があり、話し合いの結果、サッカー部が同好会となることとなったのです。そこで、サッカー部員をラグビー部に勧誘するとともに、途中で退部した同級生を誘い、何とか18〜19名の部員数となったのです。

また、こんなこともありましたが、それまで試合で使用していたユニフォームが古く痛みがひどくなってきたことから、新調しようという声があがったのです。しかし、当時の部費予算はきわめて少なく新調費用を賄えませんでした。部費の増額を申し入れたものの、まったく受け入れられませんでした。仕方なく自分たちで調達しようということになり、たまたま一時的なアルバイトの話がありました。山のつる芋を採取する、というものです。部員総出で近隣の山に分け入ってつる芋を掘って回りました。そのおかげでユニフォームも新調できました。

このように名ばかりのキャプテンでしたが、新チームの活動が始まり、新チーム初戦となる春の大会に臨みました。

ところが無残にも1回戦敗退。1年先輩方と臨んだ前年はベスト8だったので、その足元にも及びませんでした。

これを期に、その後、猛練習をしたか、というと、そうでもなかったように思いますが、練習時間は長く、日が暮れて暗くなりボールが見えなくなるまで練習を続け、そのあと、廣瀬神社の階段昇りなどをして、帰りは最終電車のこともありました。こうしたことから部員同士の意見交換が多くなったことは確かです。

当時のチームは体格的に小柄の部類であり体力的に劣勢でしたが、これを補える方策を皆で考案し技術面を向上させることができたのです。

そして、私がキャプテンとして最後となる全国大会県予選に臨んだのです。この時の

部員数は総員18名というメンバーざりざりのチームでしたが、次々と勝ち上がり舞鶴との決勝戦に。

当然ながら大差負けでしたが準優勝という名誉を手に入れることができました。さらに県代表となった舞鶴は、この年、全国制覇を成し遂げたのです。ということは準優勝の竹高は全国2位か？と、皆で盛り上がっ



前列左から3人目が上野聖展さん(昭和50年卒の卒業アルバムから)

たものでした。

こうして、私は竹高ラグビー部員として高校生活を送りましたが、大学進学から就職へと進路を変更し、卒業後は埼玉県へと上京、地方公務員(県警察)

窓生登場② エイジ・シュート (AGE SHOOT)



加藤 興史さん
(昭33年卒)

昨年のノーベル賞医学・生理学賞を受賞された本庶佑さん(76歳)は受賞後の記者会見で「研究以外で成し遂げたいこと」との質問に対して、「私は現在76歳ゴルフが大好きです。エイジ・シュートを達成したい」と述べられました。「エイジ・シュート(AGE SHOOT)」、今年の流行語大賞候補?になるかもとの噂もありました。

エイジ・シュートとはゴルフの1ラウンド(18ホール、パー72)ストロークプレーを、自身の年齢以下の打数でホールアウトすること。年齢が60代後半以降にならないと達成が難しく、技術はもちろん健康維持との闘いでもあります。

私は79歳の誕生日(1939

としての社会人人生を送り始めました。そして59歳で早期退職しましたが、高校時代のラグビー経験が厳しかった社会人人生(警察人生)の精神的な支えになったと思っています。



富士ヘルスカントリークラブでの加藤興史さん

年9月18日生)に、奇しくも79でホールアウトしエイジ・シュートを達成し、そして10月末のコンペで2回目の79ストロークで優勝しました。嬉しさのあまり、臥牛の仲間や昔の同僚等にその事を報告しました。その中にビックリの内容でエイジ・シュートの回数を重ねている人に出会えました。ほかでもない、その人は関東同窓会・会長、菅博敏氏です。現在71歳



エイジ・シュートを10回達成している菅博敏会長(左から3人目)

(HDCP 36)の菅さんは、69歳で2回、70歳で3回、71歳の昨年は5回、そして10月10日の臥牛会コンペでは、何と、驚異の67=36、31(5バーディ)ストロークでラウンドし、10回目のエイジ・シュートを達成してしまいました。パー72以下で10回達成し、まだ記録を伸ばしているのです。アンダーパー72以下でエイジ・シュートを10回以上達成しているゴルファーは日本人の中でも数少ないのではと思います。大変な記録です。

もう一人、エイジ・シューターがいました。衛藤光弘さん(昭35年卒)です。平成27年5月(77歳時)1週間に2回、名門藤ヶ谷カントリークラブで達成したそうです。まだまだ同窓生の中にエイジ・シューターがおられると思います。菅会長はじめゴルフ大好き仲間の皆さん、健康維持しギネス登録出来るように頑張ってください!

生窓③ 同登場

洋の絵画から、和の世界へ轉身 家業の跡を継ぐべく修行中

板井 靖良さん(平19年卒)

2007年3月に私立文系クラスを卒業し、福岡の予備校に通った後東京の大学へ進学しました。実家は竹田の城下町で和菓子屋を営んでいます。その時は私が実家の家業を継ぐようなとは思っていませんでした。

4人兄弟の末っ子でしたので、昔から両親にはやりたいことをやりなさいと言われて自由に育ちました。努力することは苦手でしたが、好奇心は人一倍強く、特に幼少期から続けている音楽による繋がり、今でも東京での生活に彩りを与えてくれているように思います。私が和菓子屋についていると思ったのも、音楽や絵画の世界と共通する部分を和菓子・和の世界に見いだすことができたからです。

大学の学部生4年目の夏にフランス・パリのソルボンヌ大学の語学研修に参加しました。語学というのは大義名分で、大学生最後の夏休み全てをフランスで過ごせるという魅力の方が大きかったです。

授業は午前中に終わるため、午後は毎日美術館や教会へ通い、沢山の芸術に触れることができました。夕暮れの光に照ら

される印象派絵画の陰影、教会に天高く響き渡る賛美歌。その一瞬一瞬を思い出すたびに、今でも私の心は揺れ動くほど、この2カ月間は自分自身の感性や情緒をより豊かにしてくれました。

帰国後はその反動か、「和」の文化にとっても興味が出てきました。そんな最中に訪れた青山の根津美術館で見た、尾形光琳の『燕子花図屏風』と円山応挙の『藤花図』の屏風が隣同士に置かれている光景。どちらも日本美術の傑作にして雄々しい光琳の燕子花と、繊細に背景に消えていく淡い応挙の藤の花。

その表現の差を目の前にして、今まで狭く苦しいと思っていた和の世界がとも自由なものに思えてきました。そして応挙が描いた藤の花は、パリのマルモッタン美術館で見たクロード・モネの藤の花の絵画を彷彿とさせ、



《虎屋菓寮 京都一条店のテラス席にて》

東京ではあまり見かけませんが、京都の街では着物や浴衣を着た人の姿を至る所で目にします。私も茶道のお稽古の際などは、着物を着て地下鉄に乗ってお稽古へ行っていました。この写真はアルバイト終わりに職場の人たちと祇園祭に行く前に撮っていただきました。四季の移ろいを感じられるお庭に面するテラス席は、和菓子やお抹茶の味わいをより一層引き立てます。



《仏・パリのオランジュリー美術館の“Les Nymphéas”の前で》

パリの街には今まで7回訪れていますが、必ず行く場所がこのオランジュリー美術館の睡蓮の部屋です。天井から自然光が差し込むため、それに呼応した部屋中のモノの色彩の世界は刻一刻と変化します。不思議なことに深く陶醉する日もあればとても悲しい色に見える日も。光の変化だけではなく、きっとこの絵画を通して自分の心の変化を感じとっているのかもしれませんが。京都での生活の苦しさ負けそうな時、逃げるように訪れたパリの街は直前に連続的に発生したテロのせいで疲弊していました。至るところに銃を構えた軍人が歩いていたり、不安な心を隠しきれない人の姿も。そんな中でもオペラ座で観たバレエは最高に前衛的で、美術館の絵画は最高に美しく見える。心が荒む時にこそ芸術は人に寄り添い豊かさをもたらすこと、芸術の底力をこの街は教えてくれました。想像を絶することが起こる世の中で、芸術と同じように和菓子の優しい味わいこそ、人の心に寄り添っていきけるのではないかと思います。

表現芸術において国境など存在しないことを実感しました。強迫観念的に私の頭に憑依していた「和」という文字が、W.A.に変った瞬間でした。

大学卒業後は京都の菓子専門学校で菓子づくりの技術的な面を学び、昼間は実際に和菓子屋でアルバイトとして働きはじめました。幸運にもずっと憧れの存在であった虎屋の、しかも創業の地である一条の菓寮で働くことができました。人生初めてのアルバイトであり、場所柄、毎日が忙しく、勉強との両立は本当に大変で苦しいものでした。しかし今では、日本の文化の集積地である京都での2年間こそ私を強くしてくれたと思っています。今でも新幹線を降りれば「おかえり」と言ってくれる人たちのいる街。そして

て初代が中川公の御用を司るまで菓子を作っていた京都は、私にとつての第2の故郷です。

「あと最低5年は外で働いて、人の痛みのわかる人間になって帰ってきなさい」

専門学校卒業後、私は正社員として虎屋に改めて入社し、現在は東京・赤坂の工場で生菓子を作っています。京都を離れてあえて東京を修行の地として選んだのは、オリンピックを控えた勢いに乗るこの街で、和菓子の可能性を見出したいという思いからです。世界都市の中にあっても和菓子は埋没することなく、形を少しずつ変えながらもしっかりと人々の生活の中にあることを実感しています。今担当している洋梨とキャラメル羊羹は、虎屋のパリのお店で生まれたお菓子です。日本の浮世

絵を好んだモネの絵画が日本でも愛されているように、柔軟性のある日本文化の一翼を担う和菓子こそ、さらに世界中から愛される存在になれるはず。和菓子作りは自分にとって決して楽しいものではなく、とても厳しい世界です。それでも、お客様に美味しいお菓子を食べていただきたいという一心で、虎屋の餡子と向き合っています。いつかそれが糧になり、故郷で色彩豊かに花開くことを信じて、必ずやり遂げます。

高校時代、悩み多き頃によく登っていた岡城から見下ろす雄大な世界。城下町に響き渡る水の音色。赤坂のビルの合間をまだ朝日が登る前に出勤している時、ふと、思い出すことがあります。

「平成時代の卒業生を

探しています」



高橋敏政組織委員長
(昭46年卒)

皆様の協力により、
昨年度、新たに3名の
会員情報をいただきました。
ありがとうございました。
いました。

歌手中島みゆきの歌唱する「糸」に、縦の糸は
あなた、横の糸は私、織りなす布は…、同窓会
を織りなす布に例えれば、縦の糸は先輩・後輩の
繋がり、横の糸は同学年の繋がりになります。今、
平成時代卒業生が減少し、同窓会という布が織れ
なくなりつつあります。関東地区にいるのか？
いないのか？ それさえもわかりません。

どうかみなさま、この現状をご理解いただき、
クラブ活動の先輩後輩、親戚縁者、故郷のご近所
の方、ご子息の勤務先などにアンテナを広げてい
ただき、情報を獲得いただけるようお願い申し上
げます。

そして獲得した情報は、学年幹事、または小生
に連絡いただければ幸いです。

組織委員長 高橋 敏政

携帯：090-5173-3020

訃報

慎んでお知らせ申し上げます、
心からご冥福をお祈りいた
します。

物故者御芳名

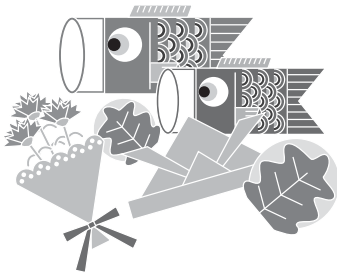
竹下 勉様 (昭41年卒)

平成30年9月30日没

伊深佳洋子様 (昭35年卒)

平成31年1月20日没

※事務局へ連絡をいただいた方々を掲載
させていただきました。



長年親しんできたわが関東同窓会の
ホームページですが、利用サーバーの
変更に伴ってデザインを一新すること
になりました。本誌がみなさんの手元
に届くころには、すでに新しいホーム
ページになっています。ぜひご覧いた
だきたいです。右記の検索ですぐに表
示されますのでご利用ください。

竹田高校関東同窓会

検索

▼ホームページURL▼

<http://kantoutaketa.org/>



ホームページ
運用担当
川辺 浩克さん
(昭63年卒・
広報副委員長)

4月1日より、新しいホームページが開設されました



竹田高校関東同窓会の
ホームページが一新!!

編集後記

私の郷里、清川町（旧・清川
村）の御嶽神楽が、今年1月に
東京・羽村市から招聘され公演
を行いました。会場となった
「生涯学習センター・ゆとろぎ」
には、在京「清川会」の方々を
はじめ、「豊後大野市人会」や
竹田高校関東同窓会のみなさん
も多数ご来場されておりまし
た。公演は3時間に及び、やん
やの喝采を浴びていました。な
お、この模様は羽村市のケーブ
ルテレビ「テレビはむら」で放
送されており、YouTubeでも
視聴できます。

東京都羽村市公式動画チャンネル
テレビはむら NO.1322

検索



連絡先

〒181-0003

東京都三鷹市北野2-3-22

(広報委員長) 衛藤 淳 宛

TEL: 090-9159-7231

FAX: 0422-43-7762

mail to : etoj@hotmail.com